

町村週報

(町村の購読料は会費)
の中に含まれております

3079号

毎週月曜日発行

発行所 全国町村会 〒100-0014 東京都千代田区永田町1丁目11番35号：電話03-3581-0486 FAX03-3580-5955

発行人 武居丈二：定価1部40円・年間1,500円(税、送料含む) 振替口座00110-8-47697

<http://www.zck.or.jp>



天竜川沿いの風景 (長野県泰阜村)

もくじ

- 随 情 フォーラム 政
- 想 報 報 策

地域の実情に応じた多文化共生の取組を推進
多文化共生の推進に関する研究会報告書2018……………(2)

湯治の里 大蔵村肘折温泉郷の地域資源を活用した取組Ⅱ山形県大蔵村
町村Nav……………(5)

町村ご当地キャラじまん
建築のノーベル賞……………(9)

岐阜県大野町長 宇佐美 晃三……………(10)

(11)

コラム

三遠南信、島々への期待

法政大学名誉教授

岡崎 昌之

久しぶりに静岡県、愛知県、長野県の県境、「三遠南信地域」を訪れた。この地域を訪れると、柳田国男の『島の人生』(昭和26年)の冒頭部分を思い出す。「美濃の東南部の山村をあるいてゐた際に、島内安全といふ文字を彫刻した路傍の立石をみたことがある。島はあの邊では民居の集合、今の言葉でいふ部落又は大字のことらしい」(原文のまま)と柳田は書いている。当時は島と呼ばれた集落が、山中にも沢山存在していたのであろう。

この地域は、県庁所在地からはずれも遠隔地であり、かつ昭和30、40年代には佐久間ダムなど、県境にまたがる巨大なダム建設があった。それに伴い集落の水没や移転がおこり、急激な過疎化が進んだ。いわゆる「開発」からは取り残されてきた地域である。そこで豊橋市、浜松市、飯田市などの経済団体や自治体が連携し、県境を越えて広域的地域振興を進めてきた。

今回調査で訪れたのは、愛知県豊根村と長野県泰阜村であったが、泰阜村温田駅から豊橋駅まではJR飯田線で3時間かかった。県境の急峻な山間部を走る車窓からは、山林と

荒れた田畑、疲弊した集落が目につく。しかしこの沿線こそ、諏訪湖から始まり、紀伊山地、四国山地、九州阿蘇山地へ繋がる中央構造線の起点にあたる。この断層線は河谷を連続的に発生させ、それが自然の道となり、縄文、弥生時代以来、多くの人や物、情報が流入する基幹的なルートを形成した。豊根村に伝わる「花祭り」やこの地域に広く分布する田楽、念仏踊りなどが残されているのは、このことが背景にある。

豊根村では、毎年3家族を村内に移住させ、2060年に九百人の人口を維持し、児童生徒を百人確保することを目標に、たとえば30年間賃貸したら土地と建物を譲渡する定住促進住宅を建設するなど、若者の移住と雇用策に本格的に取り組んでいる。泰阜村では、地域おこし協力隊修了者が、女性猟師、特産のコンニャク生産の復活などで活躍し、多彩な外部人材が村を支えている。三遠南信自動車道やリニア新幹線の期待も高まるが、さらなる都市への集中ではなく、新しい山村文化が形成され、多くの山中の島々が生き生きと再生することを期待したい。

写真キャプション

天竜川中流東岸に位置する泰阜村は、天竜ライン下りの終点。天竜ライン下りは船頭の投網ショーやガイドの案内を聞きながら約50分の船旅で、春の新緑と山桜、夏の緑と白百合、秋のもみじ、冬の雪景色と四季の変化に富む名勝に相応しい景観を味わうことができる。

地域の実情に応じた多文化共生の取組を推進 多文化共生の推進に関する研究会報告書2018

2018年10月に設置した「地域における多文化共生の推進に関する研究会」では、地域における多文化共生施策の更なる推進に向け、優良な取組の新たな共有方法について検討を重ねてきた。この度、これらの議論や多文化共生に係る地方自治体等の取組事例などを取りまとめた報告書が公表された。

地域における多文化共生の取組状況

日本における在留外国人数は、2018年6月末時点で約264万人と、過去最高となった。1990年ごろから大幅に増加していたが、リーマンショック（2008年）後に減少に転じ、その後再び増加傾向となった。総人口に占める在留外国人数の割合も同様の傾向が示されており、過去最高を記録している。

在留外国人の国籍・地域別の推移をみると、中国、韓国、フィリピン、ブラジルに加え、ベトナム、ネパール、インドネシア、タイといった東南アジア・南アジア各国が増えている。多国籍化も進んでいる。在留外国人の在留資格別の推移をみる

と、特に「技能実習」や「留学」の在留資格を持つ者が増加傾向にある。

総務省が2006年3月に策定した「地域における多文化共生推進プラン」により、地方自治体は多文化共生の推進に取組んできた。

2018年4月時点での、地方における多文化共生の推進に係る指針・計画の策定状況を見ると、地方自治体全体では823団体（約46%）が策定。都道府県では45団体（約96%）、指定都市では20団体（100%）、外国人集住都市会議会員都市では15団体（100%）が策定している。一方で、市区町村（指定都市を除く）では758団体（約44%）と、取組に濃淡がある。

アンケート調査結果

総務省が2018年9月に実施したアンケート調査は、多文化共生の取組状況等を把握することを目的としている。

○重点的に取組んでいる分野

市区町村では、「地域における情報の多言語化」を挙げた団体が最も多く、「日本語及び日本社会に関する学習支援」、「地域社会に対する意識啓発」、「教育に関する支援」といった分野が続いており、より日常生活に関連した分野が多く挙げられた傾向であった。都道府県・指定都市も、順位は異なるものの同様の傾向であった（図1）。

記述回答の一部を紹介する。

- 行政機関において各種手続きや相談等を行う際、通訳ボランティアを同行し、円滑な手続き、相談等が行われ公平なサービスが受けられるためのサポートを行うサービスを実施している。
- 外国人児童生徒相談コーナーに外

国人児童生徒教育相談コーナーが常駐し、教職員や児童生徒、保護者に対する支援を行っている。
 ・やさしい日本語・英語・中国語・韓国語の4か国語版の多言語防災力イドブックを作成。また、災害時多言語コールセンターを設置することで安全・安心に暮らせるまちづくりを推進している。

○現在課題と認識している分野

市区町村では、「防災に関する支援」を挙げた団体が最も多く、「地域における情報の多言語化」、「日本語及び日本社会に関する学習支援」、「教育に関する支援」といった分野が続いている。都道府県・指定都市も、順位は異なるものの同様の傾向であった（図2）。

記述回答の一部を紹介する。

- 近年、外国人住民の多国籍化が進んでおり、基礎自治体毎に、多言語対応することはコスト面、効率性の観点からも困難。
- 外国人市民相談事業では5割以上が医療・健康に関するものであり、病院で治療内容の説明などに通訳を求めるものが多い。高度な知識を要し、医療過誤などの補償リスクがある医療通訳については、本市規模で単独で配置することは困難で、医療

政 策



図1 多文化共生に関して重点的に取り組んでいる分野

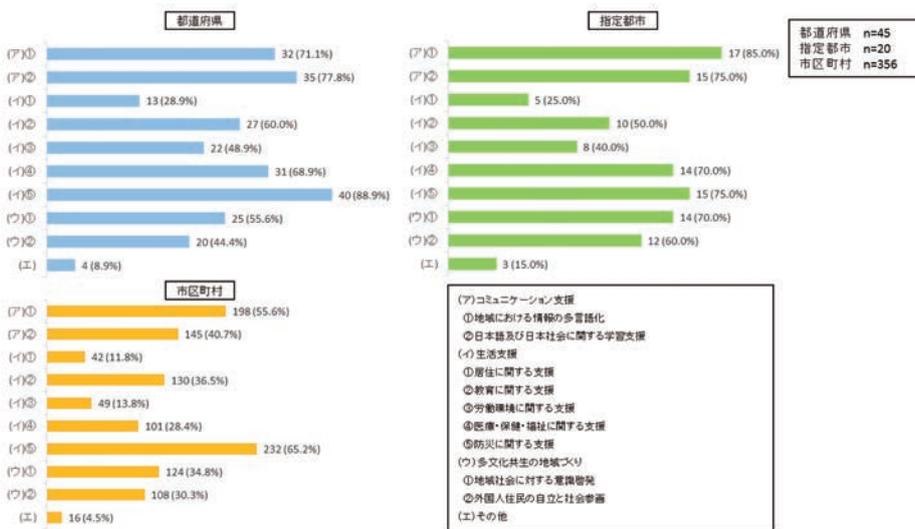


図2 多文化共生に関して現在課題と認識している分野

通訳対応できる府立病院や府の医療通訳ボランティア等との連携が必要だと考えている。

・外国人市民の中には、災害の少ない国の出身者も多く、災害に関する知識が不足している。

○先進的な取組の共有が期待されている分野

市区町村では、「防災に関する支援」を挙げた団体が最も多く、「地域における情報の多言語化」、「日本語及び日本社会に関する学習支援」、「地域社会に対する意識啓発」といった分野が続いている。都道府県・指定都市も、順位は異なるものの同様の傾向であった。

共有手法については、「先進的な

取組を行っている自治体の職員等から助言を受けられるアドバイザー制度」が、都道府県・指定都市で7割程度、市区町村で5割程度の団体で活用の意向が示されている。「地域の自治体が集まり、多文化共生にかかわる先進的な取組の紹介や団体間での情報共有等を行う会議」が、都道府県では8割程度、指定都市では9割

多文化共生に係る優良な取組の新たな共有手法

の団体、市区町村では6割を超える団体で参加の意向が示され、地方自治体において先進的な取組の共有に関するニーズの高さがうかがえた。

先進的な取組の共有に対する地方自治体のニーズは高く、今後、先進的な地方自治体の取組事例を横展開し、全国的に市区町村レベルでの取組を一層加速させていくことが求められている。

新たな共有手法として、多文化共生に先進的に取組む地方自治体からの助言や情報共有を促進する「多文化共生アドバイザー制度」の創設、地方自治体が情報共有等を行うための「多文化共生地域会議」の開催に係る仕組みや運用方法等について検討した。

「多文化共生アドバイザー制度」とは、多文化共生に先進的に取組む地方自治体からの助言やサポートを一層促進するための取組。

対象は、地方自治体の担当部署又は職員。先進的な知見やノウハウを有する職員を、総務省が名簿化し情報を提供する。多文化共生アドバイザーの活用を希望する地方自治体は、名簿を参考にして相談（相手団

政 策

体への訪問、職員の派遣依頼、メールや電話での問い合わせ等)を行う。なお、アドバイザーの活用にあたっては、必要に応じ、総務省に対して相談を行うことができる。アドバイザーの活用実績については、総務省で蓄積され、全国の地方自治体に共有されるとともに、アドバイザーの活用促進につなげていく(図3)。

「多文化共生地域会議」の目的は、地域における多文化共生施策の更なる推進を図ること。都道府県または地域ブロック単位や複数の都道府県合同での開催も可能とし、希望すれば総務省との共催も行うことができ

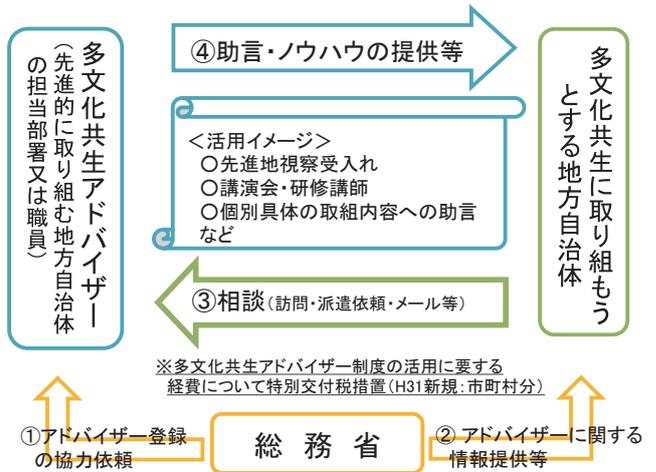


図3 多文化共生アドバイザー制度の活用イメージ

想定される開催内容は、国の施策・全国の取組状況等の紹介、都道府県内の取組状況等の発表、有識者や多文化共生アドバイザー等による講演、先進事例紹介、グループ討議等(図4)。

報告書では、近年多文化共生の観点からも活用が広がっている「JETプログラムの活用」について紹介している。

JETプログラムとは、地域にお

JETプログラムの活用

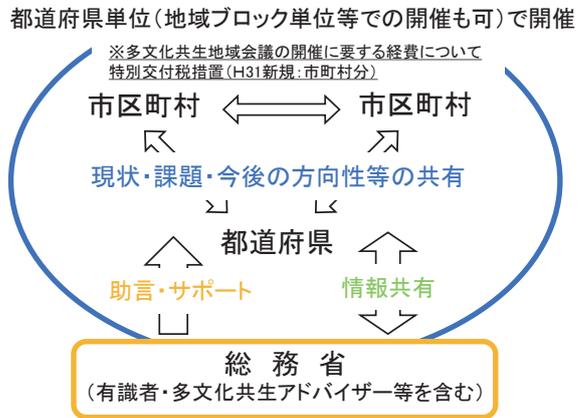


図4 多文化共生地域会議の開催イメージ

多文化共生等の業務に従事するなど地域の国際交流の幅広い分野で活躍している(平成30年度…257の地方自治体等が任用、39か国、472人)。

スポーツ交流員は、スポーツを通じた国際交流活動に従事。東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催にかかるホストタウン事業での活動を担う。

外国語指導助手は、小学校・中学校・高等学校の外国語活動や外国語科の授業等で活躍。新学習指導要領の実施を踏まえた国際交流活動に従事する。

ける国際交流の推進や外国語教育の充実のため、総務省・外務省・文部科学省と(一財)自治体国際化協会が協力して実施している外国青年招致事業。職種は、国際交流員(CIR)、スポーツ交流員(SEA)、外国語指導助手(ALT)がある。国際交流員は、高い日本語能力(N2以上)を有する人材を選考しており、インバウンド対策、海外販路開拓、

車両共済(保険)のご案内

この車両共済(保険)は、町村生協の自動車共済で補償する対人賠償、対物賠償、限定搭乗者傷害等に加え「ご自身のおクルマの補償(車両保険)」を追加する制度です。お車が衝突した場合や台風・いたすら・盗難など偶然な事故で損害を被ったときに、共済(保険)金をお支払いします。

●お見積りのご請求・お申込み・お問い合わせなどは、下記までご連絡ください●

株式会社 千里 (取扱代理店)

〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-32 全国町村会館西館内 ●ホームページアドレス <http://www.chisato-ag.co.jp>

お電話の際には、車検証をお手元にご用意ください

(受付時間：祝日、年末年始を除く月～金 午前9時30分～午後5時)

TEL 0120-731-087 FAX 03-3519-7325

- 「車両共済(保険)制度」は、全国町村職員生活協同組合と損害保険ジャパン日本興亜株式会社とが集团協約を締結し、実施しているものです。
- 集团協としてご契約いただけるのは、保険契約者および被保険者が損保ジャパン日本興亜の定める条件を満たす場合のみとなります。このご案内は概要を説明したものです。詳細については、取扱代理店(千里)までお問い合わせください。

(車両保険引受保険会社) 損害保険ジャパン日本興亜株式会社

SJNK17-16682(2017.12.28作成)

フォーラム

▶ 肘折温泉街・ひじおりの灯

現地レポート

町村独自のまちづくり



湯治の里 大蔵村 肘折温泉郷の
地域資源を活用した取組



山形県
おおくらむら
大蔵村

大蔵村の概要

大蔵村は山形県北部、最上地方の南部に位置し、総面積は211.59km²で、その内の85%にあたる180km²が山林という山あいの村です。

村の南方には、出羽三山信仰で栄えてきた霊峰月山と葉山がそびえ、そこからの流水を湛え、村の中心部である清水・合海地区の美しい田園地帯を山形県の母なる大河最上川がゆっくりと流れています。

村の交通の要である国道458号が村の中央部を南北に走り、それに沿って大小27の集落が点在し、1、084世帯、約3、300人が静かに暮らしています。村の基幹産業の一つである農業は、稲作を中心として営まれてきましたが、近年トマトの生産も盛んとなり、県内一の生産量を誇っています。

観光業の拠点である肘折温泉郷は月山や葉山のふもとに位置し、開湯1200有余年の歴史を誇り、古くは山岳信仰とともに栄えてきました。近年は、湯治場として栄え、今でも湯治場風情



▶ 4 mを超える雪壁



フォーラム

を色濃く残す温泉地となっています。肘折温泉は、豪雪地帯としても知られ、平年の積雪は3m以上に達し、ときには4mを超えることから、しばしば全国ニュースでも取り上げられる日本有数の豪雪地帯です。

温泉街から15分ほど北上したところにある、豊牧、沼の台、滝の沢、平林の4地区は「四ヶ村」と呼ばれ、地域にある約120haもの広大な棚田「四ヶ村の棚田」を一目見ようと、県内外から多くの人が来村しています。

過疎化や高齢化が進んでいますが、何よりも大蔵村には人々の営みの中から作り上げられてきた地域資源と後世に残したい農山村の風景があり、NPO法人「日本で最も美しい村」連合の立上げの村として活動を展開しています。

肘折温泉郷

開湯1200年以上の歴史を誇る「肘折温泉郷」は21軒の旅館が軒を連ねる、当村を代表する地域資源です。湯治場としての風情を今でも色濃く残すレトロな温泉地として、多くの方々から愛されています。

春から降雪期まで温泉街には朝市が立ち、旬の山菜や野菜、きのこ、惣菜などとともに、地元のお母さん方との会話を楽しみを訪れる方も多く、温泉街の名物となっています。

温泉街名物の朝市



観光スタイルの変化とともに、肘折温泉郷の観光客数は年々減少していますが、最近では、家族連れや若い方々、さらにインハウンドの推進により海外からの観光客も見られるようになりました。これまでのように、湯治場として長期滞在する方々は少なくなっていますが、肘折温泉郷ではこうした現状を受け止めながら、古くからの伝統的な湯治を失くすことなく、多様なニーズに応えるため、湯治プランの他、旅籠のプランなどお客さまの要望に応じた宿泊ができるような工夫を続けています。

夜の温泉街活性化

肘折温泉は湯治場として栄え、早朝に朝市が立つなど、朝型の温泉地となっています。それに伴い商店も早朝から店を開き、夜の閉店が早い、いわば湯治客時間となっています。近年、短期滞在型の観光客が増えるにつれ、夜の温泉街が暗い、見るものがないと言った声が多く聞かれるようになりました。

そんな中、夜の温泉街を楽しむための取組として、肘折地区と東北芸術工科大学との連携による「ひじおりの灯」アートプロジェクトを開始し、昨年で12年目を迎えました。アーティストが肘折に滞在しながら取材を行い、肘折の歴史や風景、文化や生活の様子を八角形の灯籠に描きます。旅館や商店の軒に吊るされた灯籠が夜の温泉街を彩り、夏の風物詩として親しまれています。こうして描かれた作品も年々多くなっており、これらの作品をいつでも鑑賞できるような取組も必要と考えています。

豪雪の活用

日本有数の豪雪地帯である肘折温泉は、その雪を活用したイベントを数多く実施しています。高さ3mを超える雪壁に穴を掘り、ろうそくやキャンドル

ライトを灯す「肘折幻想雪回廊」や、降り積もった雪を掘り進み一番早く地面の土を掘り起こす競技である「地面だし競争Snowing」肘折、「世界一の雪」たるまとしてギネスブックに登録された巨大雪だるま「おおくら君」を制作し、花火大会や甘酒のふるまいなどを行う「おおくら雪ものがたり」など、豪雪を資源とした取組を数多く実施しています。

また、今年で4年目となる「トカ雪・大雪割キャンペーン」は、大蔵村観光協会による豪雪を逆手に取った取組です。24時間降雪量に応じて、旅館の宿泊や商店での買物が割引になるほか、これまでの最高積雪深を更新した場合、旅館での宿泊が1泊無料となります。昨年度、445cmの観測史上最高



▲おおくら雪ものがたり

フォーラム

◀地面だし競争



積雪深を記録し、1泊無料となったことで全国から大きな反響をいただきました。今年度以降も継続してサポートしていきたいと考えています。

雪は観光資源になると同時に、首都圏や遠方地域のお客さまから敬遠される要因の一つになっていますが、大蔵村の除雪体制は、「日本で最も除雪完備の村」を標榜し、万全を期していますので、ぜひ豪雪期の大蔵村を体験していただきたいと思えます。

二次交通

最寄りの駅であるJR新庄駅から肘折温泉までは、車で約50分となっています。これまで地域交通を担っていた路線バスが利用客の減少に伴い、平成29年で廃線となりました。これを受け、同年からは同じルートで村営のバスが運行しています。観光客の方が大蔵村

へ移動する手段となっているのはもちろん、地元高校生の通学手段や年配の方の買物、通院の交通手段としても利用されています。運賃も多角的に考慮し、従来の路線バスの半額程度で、より利用しやすい金額に設定しています。

また、遠方から飛行機で観光に訪れる方が肘折温泉にアクセスしやすいように、山形空港と肘折温泉をつなぐ観光ライナーを運行しています。肘折温泉郷にある会社とタクシー会社が連携してこの事業を続けており、村がサポートしています。

四ヶ村の棚田

大蔵村の大きな地域資源の一つとして、「四ヶ村の棚田」があります。面積は全体で約120haあり、そのうちの12haが「日本の棚田百選」に選定されています。

棚田は、その保全・維持において、並々ならぬ労力が必要です。大蔵村は少子高齢化が進んでおり、後継者不足が深刻となっています。棚田で農作業を行う農家の方々も同様で、耕作放棄地などが増えていることも事実です。美しい棚田を多くの方に知ってもら

おうと始めた取組の一つに、「四ヶ村棚田ほたる火コンサート」があります。元々は地元の方々を楽しむために棚田にろうそくの火を灯す「ほたる火祭り」として始まったもので、現在は同時にコンサートを行い、ほたる火コンサートとして実施しています。広大な棚田にほたる火が灯りオカリナの音色が響きわたる、一年に一夜限りの光景を楽しみたいと多くの人が集うイベントへと成長し、今では村最大の観光イベントとなっています。

ペットボトルとろうそくで作る「ほたる火」の作成にあたっては、地元中学生がペットボトルの回収を村内に呼びかけ、住民と共同でペイントを施し、棚田へ1、200本設置するほか、当日は点火のお手伝い、アーティストと



▲四ヶ村の棚田



▲ほたる火コンサート

一緒にオカリナの演奏、棚田に関するパンフレットの作成及び来場者への配布を行うなど、さまざまな形でイベントへの協力を行っています。地元住民と子ども達のコミュニケーションの機会となっていると同時に、地元への関心を深める学習の場にもなっています。

また、四ヶ村の棚田では地元有志で組織される「棚田米生産販売組合」による棚田米の販売も行われています。四ヶ村の棚田米は葉山の雪解け水を水源とし、生活雑排水が一切入り込まない地域での生産であり、ロケーションの良さも相まってファンの数は年々増えています。組合による棚田米オーナー制度では、自分で作った米を持ち帰ることができるのももちろん、田植



▲肘折幻想雪回廊

え、稲刈りなどの体験が行われ、毎年、県内外から多数のオーナーの方々が集まっています。

一般の方も棚田米を購入することが可能で、首都圏への売り込みや観光イベントでのPRを通して、少しずつ注文数が増えている状況にあります。

大蔵村は、2020年の全国棚田サミット開催予定地となっており、全国から多くの参加者をお迎えするにあたり、地域の方々と協力しながら準備を進めているところです。

現状と今後の村づくりに ついて

大蔵村は少子高齢化が進んでおり、大学進学等をきっかけに若年層の村外への流出も少なくありません。これに

伴い、温泉街や棚田のある地域だけでなく、村内全域で後継者不足や担い手不足が問題となっています。村では子育て支援住宅の整備や子育て支援医療制度による中学3年生までの医療費の無償化を行うことで、若者の住みやすい街づくりに力を入れてきました。ここ数年、子どもが増えるなどその効果も現れ始めています。

基幹産業である農業、観光業においても、儲かる産業を目指し、支援を行ってきた結果、Uターンする若者が増加しています。特に、農業では新規就農する方々が増加しており、そうした若手農業者が大蔵村農業後継者の会、通称「メンス農業」を結成しました。お互いに農業について意見交換や相談をしながら真剣に取り組んでおり、村の将来を支える貴重な存在となっています。

これまで、数多くの事業や施策を展開し継続してまいりましたが、全国的な人口減少とともに、我々地方は過疎化に歯止めがかからない現状にあります。私どもは、小さな村だからこそできる村づくりを心掛け、「大蔵村に住んで良かった」「住み続けたい」と思えるような、また、自分が生まれ育った村に誇りを持ち続けられるような村づくりのため、今後とも住民の方々の対話を大切にしながら、勇猛精進したいと考えています。

大蔵村長 加藤正美

地域づくりの「元気の素」を募集中

2019年度あしたのまち・くらしづくり活動賞募集

（公財）あしたの日本を創る協会

同協会はこのたび「2019年度あしたのまち・くらしづくり活動賞」の応募受付を開始した。

同賞は、全国各地で展開されている活力のある地域づくり・くらしづくり・ひとづくり活動に取り組む地域活動団体等の優れた活動を顕彰するもの。震災復興のまちづくり活動及び復興支援活動も募集する。

◎対象

応募対象は、地域住民が自主的に結成し運営している団体や、こうした団体と積極的に連携して地域づくりに取り組む企業、商店街、学校など。地域に即した発想・リーダーシップ・方法などにより、2年以上活動し大きな成果をあげており、市区町村地域程度までを範囲に活動している団体を対象とする。

◎応募対象となる活動内容やテーマ

災害に強い安心安全な地域づくり、住民同士の支えあい活動、地域コミュニティの維持、子育て支援や居場所づくり、子ども食堂、高齢者の生きがいづくりや日常生活のサポート、震災復興のまちづくり活動や復興支援活動、生活環境の改善、地域文化の振興、資源リサイクルや地域環境保全、都市と農山漁村との交流、地域の伝統を生かした食育・地産地消活動など、住み良い地域づくりにふさわしい活動。

◎応募締切 7月3日（水）

◎応募方法

①応募用紙（ホームページの所定の用紙に記入）、②応募原稿（これまでの活動内容と現在までの成果等を2000字程度）、③写真（活動の様子がわかる写真3枚程度）を合わせて提出。

同協会へEメール(ashita@ashita.or.jp) または郵便・宅配便で送付。なお、県内審査を行う、福井・兵庫の各県内からの応募は各県協議会へ送付。協議会の連絡先は同協会へお尋ねを。

◎賞（予定）

内閣総理大臣賞（賞状、副賞20万円）、内閣官房長官賞（賞状、副賞10万円）、総務大臣賞（賞状、副賞10万円）等

◎主催

（公財）あしたの日本を創る協会、都道府県新生活運動等協議会、読売新聞東京本社、NHK

◎後援（申請中）

内閣府、総務省、文部科学省、厚生労働省、全国知事会、全国市長会、全国町村会、日本商工会議所、全国商工会連合会、日本青年団協議会、（一財）長寿社会開発センター、（一財）日本宝くじ協会

◎問い合わせ先

あしたの日本を創る協会（TEL03-6240-0778）まで。
詳細は同協会ホームページ（http://www.ashita.or.jp/）を参照。

町村

ご当地キャラじまん

Vol.47

特産品だけじゃない!

文化・歴史を身にまとして観光大使!!

ご当地自慢の美味しいものや伝統行事を身にまとい、体を張ってPRしているご当地キャラたちを紹介するコーナーです。今回は、西ブロック(中国・四国・九州・沖縄)からピックアップ。

西ブロック

1月1日生まれ。年齢不詳。風の妖精で、ちよっぴりやんちゃな男の子。空を飛ぶことは得意だが、泳ぐのは苦手。好物はみかん。趣味は天気予報。好きな言葉は「この風が吹いたらいいわー!」



平生町観光協会マスコットキャラクター

かんぷくん

山口県平生町

2012年春に新しい観光イメージキャラクターとして誕生した「かんぷくん」。名前は「観光」の意味を持つ「観風」に由来しています。デザインは、山口県のマスコットキャラクター「ちよるる」の作者で、町出身・在住のグラフィックデザイナー・福永みつおさんが考案。つばらな瞳と頭の上についている小さな風車の羽根がチャームポイントなのだとか。誕生した年の秋には着ぐるみも完成し、町内外のイベントに積極的に参加するようになりました。「かんぷくんはみんなの「伝える」に笑顔添えることをミッションとし、まさに風のごとく元気に飛び回っています。町の観光PRだけでなく、知名度アップのため、町全体のPRに一生懸命です。

そのぎ茶PRキャラクター

茶子ちゃん

長崎県東彼杵町

東彼杵町の特産品「そのぎ茶」の新しいPR方法について、道の駅彼杵の荘が実施したアンケート用紙に町内在住の小6年生の女の子が描いた絵がきっかけとなり、2006年に誕生したキャラクター。「一見しモンと間違えられてしまう体は、お茶の実を表現、緑の葉っぱはもちろのお茶の葉ですが、特に頭の上の葉は、新茶の二心一葉を表しています。「茶子ちゃんろくろ」等、お菓子やグッズなどのキャラクター商品も生まれるようになり、町の人気者に。2012年に着ぐるみデビューを果たし、町の秋祭り「ふるさとふれあいまつり」に初参加してからは「新茶まつり」や「そのぎ茶市」等、町のお祭りやイベントに時折現れるようになりまし。今では、茶畑で働く農家を応援しながら、「そのぎ茶」と町全体をPRしています。



9月8日生まれ。お茶の妖精。普段はのんびり屋さんだが、新茶の季節はテンションMAXに!休憩時間のいけときにお茶を振る舞うのが大好き。ひげダンスが得意。「福とマシシ」は得意!

西原町観光キャラクター

さわりん

沖縄県西原町



7月1日生まれの妖精。年齢、性別不明。あがり症で無口だが、誰とも仲良くになりたいと思っている。特技はダンス。「妖精なので心のキレイな人しか見えない」と言うが、どうやらみんなに見えているらしい!

「さわりん」は、キャラクターデザイン的一般公募に、約1000点もあつた応募作品の中から選ばれたデザインをもとに、名前は400案以上も寄せられた候補の中から名付けられ、2015年に誕生しました。西原町が自然豊かな町であることを緑色の体で表現し、頭には町の花木「さわび(サガリバナ)」と町花の「ブーゲンビリア」がのっています。国の指定史跡「内間御殿(うちまつどうん)」の「さわびじ」から生まれた妖精で、語尾に「りん」とつけて話すかわいらしいキャラクターです。2016年にはテーマソングを募集。発表された「さわりのテーマ」の動画には、町民と一緒に踊る「さわりんダンス」や町の観光名所などが紹介されています。出会った人を笑顔にしたいと、町内外のイベントに参加しては、町のPRとともに幸せを振りまく「さわりん」です。

次回は、東ブロック(北海道・東北・関東)からご紹介します



随 想

このほど、2019年のプリツカー賞に磯崎新氏(87)が選ばれました。日本人建築家としては丹下健三氏(1987年)、榎文彦氏(1993年)、安藤忠雄氏(1995年)、妹島和世氏・西沢立衛氏(2010年)、伊東豊雄氏(2013年)、坂 茂氏(2014年)に続き8人目の受賞となります。

私も現在は岐阜県大野町長として



おのの う さ み こう ぞう
岐阜県大野町長 宇佐美晃三

行政の端くれに在籍していますが、中学生から建築を志して40年以上建築にかかわってきた者としてとてもうれしく思います。

この賞は1979年にアメリカ人実業家ジェイ・プリツカーにより設立された賞で、RIBAゴールドメダルやAIAゴールドメダルに比べて歴史は浅いのですが、建築業界では最も権威のある賞のひとつとされており、「建築のノーベル賞」とも言われています。

本来ならばもっと早く受賞できていたと思いますが、彼は賞設立から10年近く審査員を務めていたため、受賞が遅くなったと思われれます。

彼は1931年大分県で生まれています。1954年に東京大学工学部建築学科を卒業し、丹下健三の指導で建築家としてのキャリアをスタートさせ、大阪万博のお祭り広場も手がけています。以来ポストモダンの旗手として活躍され、北九州市立美術館、つくばセンタービル、水戸芸術館、ティーム・ディズニー・ビルディング、カタール国立コンベンションセンター、上海シンフォニーホールなど、世界各地に100以上の作品を設計しています。

過去の受賞者としては、ルイス・バラガン、I・M・ペイ、フランク・O・ゲーリー、レンゾ・ピアノ、ノーマン・フォスター、ヨーン・ウッツォン、そしてあのザハ・ハジドらがあります。

まさに錚々たる顔ぶれで現代建築の代表的な建築家ばかりです。そして、彼らが設計した建築がそれぞれ、地域の活性化や観光にも大きな役割を果たしていることは間違いないと思います。

たとえば、I・M・ペイが設計したガラスのピラミッドができてから入場者数が倍増したパリのルーブル美術館はもちろん、フランク・O・ゲーリーの設計によるスペイン北部バスク地方のビルバオに建つグッゲンハイム美術館や、妹島和世と西沢立衛が共同設計した金沢21世紀美術館には毎年100万人が押し寄せています。

ヨーン・ウッツォンが設計したシドニーのオペラハウスはコンペで勝利を収めたものの、技術的にも予算的にも当初は実現不可能と言われたそうです。しかしウッツォンや設計チームの努力で完成し、今ではシド

ニーの観光名所となりユネスコの世界遺産にも登録されました。

東京オリンピック・パラリンピックまであと500日を切りました。着々と工事が進む新国立競技場ですが、巨額の建設費をめぐって白紙撤回されたザハ・ハジド案を皆さんは覚えていますか？

私はなんとあのデザインを実現して欲しかったと、今でもとても残念に思っています。彼女は2016年に急死してしまいましたが、アントニオ・ガウディのサグラダファミリアのように、残ったメンバーが最後まで彼女のデザインコンセプトを守りながら、世界に誇れる建築を作り上げてくれたに違いないと考えています。そして54年前に完成した丹下健三の国立代々木競技場とともに、新たな世界遺産に登録されたかも知れませぬ。

私は、もうしばらく現職の立場にとどまり地域のまちづくりに全力で頑張る覚悟ですが、いずれ、カメラをぶら下げて日本中・世界中の建築を見て回ることを夢見ています。

さまざまな「集いの場」を 演出いたします

東京でのイベントに最適な
絶好のロケーションを誇る全国町村会館。
かけがえのないひとときを、
上質なサービスでおもてなしいたします。

県人会など同郷者の集い、
同窓会、親睦会などの懇談会

観光PR、移住セミナー
職員採用試験などの説明会

職員旅行・家族旅行

広さと設備が多様な大ホールと、3つの
会議室がございます。
会議・研修、パーティーなどに幅広くご利用
いただけます。



和・洋食のレストランも お気軽にご利用ください

全国町村会館には、
会議室・宴会場のほかに、
ふたつのレストランもございます。
お気軽にお立ち寄りください。



カジュアルレストラン「ペルラン」



和食処「さいから」

客室のご案内	SINGLE ROOM シングル 119室	DOUBLE ROOM ダブル 12室	TWIN ROOM ツイン 18室
	和室もございますのでお問い合わせください。(禁煙ルームもご用意しております。) ※市町村職員共済組合等の宿泊助成券がご利用いただけます。		

週末・祝日の
宿泊ご利用は
特別サービス
(最大20%割引)



ご予約・お問い合わせ

全国町村会館
TEL.03(3581)0471
FAX.03(3581)0220
〒100-0014 東京都千代田区永田町1丁目11番35号
ホームページアドレス <http://www.zck.or.jp/kaikan>

- 全国町村会館へのアクセス
- ・有楽町線・半蔵門線・南北線「永田町駅」3番出口徒歩1分
- ・丸の内線・銀座線「赤坂見附駅」徒歩8分
- ・タクシー東京駅から約20分

